

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000302		
法人名	社会福祉法人 柏樹会		
事業所名	グループホーム フォレストガーデン		
所在地	大阪府東大阪市池之端5番43号		
自己評価作成日	平成28年5月1日	評価結果市町村受理日	平成30年7月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	平成30年6月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様1人1人の主体性を重要視し、パーソンセンタードケアに取り組んでいる。当施設では、在宅での生活の延長を目指し、入浴に時間帯や、食事の摂食時間・余暇時間を確保し、1日の時間をゆっくり流れる様に取り組んでいます。介護現場に於いて、所属スタッフ1人1人が働きやすく、介護の楽しさを学べる様に、2ヶ月に1回管理者と悩み相談や今後の取り組み等、定期面談を実施しており、所属スタッフと管理者との距離を縮める事に努めている。また、定例勉強会を月1回、ユニットの現状の問題点やケアに反映すべき事・専門職としての専門知識等を交えた勉強会を開催し、スキルアップに繋げている。また、より理解を深める為、実演研修や、ディスカッションを交えた研修を重点的に置き、周知徹底を目指している。定例勉強会とは別に、救急時の救急搬送方法や蘇生方法・災害時の緊急対応法等の研修も交え、救急時・緊急時の備えている。その他、余暇時間の充実化を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理事長が出身地の東大阪東部地域で老人ホーム、グループホーム2か所、デイサービス、ショートステイ等地域密着型の介護施設を運営する柏樹会のグループホームの一つである。開設してほぼ6年になるが、当事業所を、地域の人たちに信頼され、頼りにされる質の高いグループホームに改革する為、一部の介護職員と共に新しい管理者が赴任した。現在はまだ手探りの感があるが、その中でまずは人材育成と考え、職員の研修を内部は自身で、外部研修では実践リーダー研修の受講などを進めている。利用者には質の高い介護を目指しながら、残存能力を活かした生活リハビリで園芸や清掃、近くの系列事業所のサロンのホスト役など、生甲斐を作りながら、体力の維持向上を目指している。すべては今後ではあるが、やがては元気なグループホームになることが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づき、管理者より、所属ユニットスタッフへ周知している。周知後、日々のケアに反映できる様に、指導・助言の下、介護実践に繋げている。	法人理念の1、ご利用者が笑顔になって頂けるよう日々の生活の中で生きがいを見つけます。2、パーソン・センタード・ケアの追求とご利用者様の情報共有に努めます。を謳っているが、管理者が代わり、変革を期して事業所独自の理念を創るべく検討中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、特別養護老人ホームと一緒にボランティアによる活動に参加している。毎月4回程度参加し交流を深めている。	自治会に加入し、ボランティアのアクション、箏曲の演奏、紙芝居、頭の体操の毎月訪問を受け、地域行事の愛ガードに参加、事業所の夏祭りやクリスマス会、系列の事業所のサロンにホストとして参加し、地域の人たちを招待し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・家人様・友人面会やユニット通信(新聞)を通して、家人様・友人様へ理解を得る為、情報開示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、2ヶ月に1回、特別養護老人ホームと共に開催している。グループホームでの活動行事報告やユニットでの今後の取り組みに関し、邁進している。	2カ月毎に、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者家族、事業所から施設長とグループホームリーダーの参加で会議を開催。事業所の状況、活動を報告し、参加者から意見感想を聞いている。地域の人たちの参加が少ない。	運営推進会議は地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。知見を有する人たちから貴重な意見をもらうために、都度テーマを定め、関連するメンバーには是非参加して貰うよう働きかけ、運営に反映させることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導にて現状報告している。日常的にケアサービスの取り組みを積極的に伝えられていない。	市の介護保険課、施設指導課等には、折に触れ訪問し現況説明をし、指導を受けている。また、市主催の研修会や会合には必ず参加し協力体制の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルや法律で定められている事柄をユニット内部研修にて周知している。また、基本として、『開かれた』状態に取り組んでいる。	職員は研修で身体拘束の具体的な行為は理解し、拘束のない介護を行っているが、医師の指示により、夜間ミトンをつけたことがあった。この時は本人、家族の了解の上で行った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット定例勉強会にて高齢者虐待防止や制定された経緯や防止する内容を具体的に研修し、周知している。また、日々のケアに反映できる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例勉強会にて人権・権利擁護、成年後見制度について参考資料を用いて、周知に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居案内時、及び契約の際、十分に説明を行い、また、重要事項説明と摺り合わせ、対応している。また、質疑応答を都度行い、納得頂ける様に取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回運営推進会議や、ユニットだよりを発行している。また、意見箱の設置や面会時、管理者・施設ケアマネをはじめ、意見と吸い上げている。また、意見を頂いた際、速やかに対応している。	利用者の意見希望は日々の介護の中で話し合い把握している。家族とは、訪問時に話し合い、意見希望を聴いている。月1回ホーム便りを送り家族に連絡をし、意見等は申し送りノートに記載し職員同士共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者より2ヶ月に1回定期面談の実施や、都度、管理者・サブリーダーへ職員1人1人の意見を反映している。また、役職・雇用形態を問わず、所属スタッフの1人として、自発的に意見できる環境作りに努めている。	全体会議、ユニット会議、運営会議があり、又管理者は2カ月に1回個人面談も行っている。介護、運営、勤務形態に関する事など、職員の意見希望を聴きとり運営に反映させている。職員と管理者とは話しやすい雰囲気があり、随時、話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者及びサブリーダーは所属スタッフの職務遂行状況や努力・実績の把握を行い、努力箇所に関しては具体的に説明の後、新たに取り組む様に指導している。勤務時間及び勤務形態は非常勤に関しては、適宜対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	試用期間中には、介護基礎知識・基礎介護技術及び事例検討を行い、感性の育成に努め、研修期間終了後より、介護応用の内容及び、年間研修計画に基づき、毎月1回勉強会にて実演研修等を交え、周知する様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	不定期ではあるが、他のグループホームの見学を行い、交流を深める様に取り組んでいる。また、サービスの質の向上を目的とし、地域包括支援センター職員と運営推進会議にて交流の場を広げる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とコミュニケーションの密度を増やし、行動や仕草に目を向け、本来のニーズの読み取りに努めている。また、日々の生活の中での安心感を得て頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居見学後、事前面談や本人様や家族様との関わりを密接に行い、関係作りに努めている。また、情報交換を常に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様よりアセスメントを行い、個人にあったサービス内容を見極め、提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	所属スタッフ一同、パーソンセンタードケアを念頭に置き、相手の立場に立った、声掛けや関わり方を行っている。また、入居者1人1人に目を向け、気配り・目配りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様面会時、本人様と家族様の過ごす時間を確保し、絆を大切にできる様に配慮している。また、家族様が安心される関わり方や、声掛け、態度、表情に気を配り、関わっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、入居されている方の一部のみ、本人持参の携帯電話で本人様と家族様・友人様と通話している。面会が乏しい方へ、職員より、連絡をし、可能範囲での面会を促している。	外部の友人、知己の訪問は非常に少なくなっているが、散歩の途中で出会って挨拶を交わしたり、系列の事業所のサロンで出会ったり、併設の特別養護老人ホームとの出入りが自由なので合同レクリエーションなどで、出会ったり、新しい知己ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士での余暇時間の過ごし方や孤立にならない様に、職員と本人様との関わりを密に行い、安心感を得て頂く様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の、家族様と書面にて連絡をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様が望んでいる生活内容のヒアリング及びアセスメントを行っている。また、家族様からの情報収集に努め、本人様の意向に添えられる様に取り組んでいる。	毎日の暮らしの中で、出来るだけ寄り添う時間を持ち意向や希望をくみ取っている。入居の際のフェースシートや家族の話などを参考にしながら意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居事前面談や入居検討中の際に、今までの生活環境や生活歴、暮らし方の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族様や本人様からの情報収集と共に、心身の状態を日々の生活の中で十分観察している。入居者様1人1人の日々の過ごし方は心身の状態に合わせて、適宜、対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者・施設ケアマネ・サブリーダーを中心に、入居者様担当の主担当・副担当の2人体制での担当制を取り入れ、各自、入居者様の状態等、モニタリングを10日に1回行っている。	月1回のモニタリングを基に介護担当、ユニットリーダー、計画作成担当者、監理者で話し合い、現状に即した介護計画を作成する。会議に家族は参加できないことが多く、訪問時または電話で連絡し了解を得る。症状に変化がない時は、6か月後に見直すようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・準夜間帯・夜間帯に本人様の状態を十分観察し関わった内容を・様子を個別の記録に記載している。また、管理者からの見解・意見を踏まえ、介護計画の見直しを行っている。また、状態変化について都度、家族様へ報告している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様が楽しんで頂ける事や安心して過ごして頂ける環境である様子を目標にユニット作りに努めている。また、可能な限り、本人様のニーズに合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特別養護老人ホームと一緒にボランティア様による催し物に参加している。また、4・5・6月、10月・11月には外出支援を企画し、外出支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医往診を毎週1回受診している。入居者様の心身の状態を把握し、適宜、上申し早期発見に努めている。また、診察結果に関し、都度、家人様へ報告している。	かかりつけ医を事業所の協力医療機関とすることに同意し月2回の往診を受けている。歯科医は毎週。他科の受診には事業所に対応している。いずれの場合も医師との連携を密にし診断結果は家族に連絡する共に、健康管理の指針としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護配置はなく、主治医へ上申及び助言後、早期対応している。入居者様の状態に合わせて、訪問看護サービス利用の契約にて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	管理者・施設ケアマネと共に、主治医及び入院先の主治医・相談員と情報の共有をしている。状態低下の際、対応方法は都度、主治医と連絡を取り、対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎週1回の往診の際、状態の変化を上申にて報告し、日々の状態の把握に努めている。グループホームでの終末期ケアの際、状態低下の兆候の時点で家族様へ報告し、十分説明の後、終末期ケアを提供している。	入居時に重度化した場合の事業所で可能な対応は、常時医療が必要な場合を除き、本人家族の希望に沿えるよう努めることを説明し、医師が重度化したと判断した時、改めて家族と相談し、対応を決める。清拭、食事介助をし、看取りした経験はある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例勉強会にて、入居者様の急変時に備え、都度、管理者より対応方法を伝えと共に、年2回、上半期及び下半期に救急法の実演研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害・地震発生の際、対応できる様に、避難経路の把握と、都度、イメージしておき、年2回、救急法に合わせて、避難訓練を実施している。また、防火管理者より、定期的に訓練を実施している。	避難訓練は年2回以上は併設施設合同で実施。防火設備、緊急時備蓄の用意はできている。夜間職員が少ない時、近隣在住職員の緊急出動の連絡網はできている。連絡訓練は形だけ行っている。避難訓練では車椅子利用者は参加していない。	いつ発生するか分からない災害に対して、全員が安全に避難できるように、考えられることを想定し、対応できるようにマニュアルを見直し、全員が周知し、まごつくことなく対応できるよう、徹底することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様1人1人の自尊心を大切にし、声掛けの方法や職員と入居者様との関係作りに努めている。排泄の際、居室備え付けのトイレを使用し、個々のプライバシーを確保している。	利用者には丁寧過ぎず、狎れ過ぎず、人格を尊重した声掛けや態度で接している。スピーチロック、プライバシーにも配慮し、トイレ誘導時は、車いす使用者以外は自室に設置されたトイレを使用している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様1人1人の思いに添えられる様に、可能な限り、実現に向けている。入居者様と職員とのコミュニケーションを密に取り、本人様の意思表出を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームユニットのテーマでもある、『パーソンセンタードケア』の実現に向け、業務改善や入居者様1人1人が過ごしやすい空間作りや清潔感のある環境を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様1人1人の趣味や嗜好、馴染みのある習慣等をアセスメントを行い、在宅での生活の延長及び環境の変化があまり生じない様に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時の盛り付けや、できる限り一緒に行える様に配慮している。また、普段の摂食量等を把握し、都度、ヒアリングしながら、盛り付けを行っている。食事形態がソフト食・ミキサー食及び粥に関しては職員が必要量を盛り付け、提供している。	昼、夜は業者から2時間前に作りたての食事が届けられ、温め、盛り付けて提供される。盛り付けには、利用者の手伝える人は一緒に行っている。刻み食などは職員が対応し、月1回は利用者の好みに合わせものとし、時々外食もする。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食・副食共に、摂食量が5割を下回らない様に、声掛けや、食器の変更、摂食する際の用具を変更し、摂食促している。また、盛り付けにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の残渣物を除去し保清に努めている。また、毎週1回、訪問歯科を受診しており、予防治療している。特記事項があれば、訪問歯科医より、所見を開示し、ユニットスタッフが周知している。適宜、主治医へ上申している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の日々の行動や様子に都度、目を向け、排泄介助している。訴え時、現病等を把握の上、誘導し、オムツ対応者に関しては、3時間に1回、または、前回の排泄状況に合わせて、交換及び保清している。	基本的にはトイレでの自立を支援している。介護の現場での経験で、利用者の態度仕草で察知しトイレに誘導している。パッド、リハビリパンツの交換を減らすよう見守っている。夜間も同様にトイレでの排泄を支援し、おむつ使用者は普段の状況で判断している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の身辺動作を自身にて可能な限り、自身にて行って頂く様にアプローチしている。食事の固形物に関しては、食道・嚥下状態に合わせ、考慮し大きさをカットしたり、食事形態を都度、検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴を目標としている。現在、入居されている方のほとんどが、入浴直前に拒否される方が多い為、週2回の入浴を目指している。また、在宅での延長をテーマに夕食摂食後1時間経過した後、入浴を行っている。	週2回の入浴を支援している。時間、曜日に拘らず柔軟に対応している。拒否される利用者が多いが、時間や、担当を代えて誘導する。浴室は広く3方向介助できるタイプで、重症者は2人介助で行う。入浴剤で気分を変えたりする。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後より、入浴実施しており、身体が温まり、夜間帯はぐっすり眠られている。日々の状態に合わせて1時間程度の静養時間を提供し、本人様のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居されている方の個別ケースファイルに現在内服中及び外用薬処置を行っている情報を添付しており、管理者・施設ケアマネ・ユニット所属スタッフが周知している。副作用等の情報を管理者より提示し、合わせて全員が周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者1人1人の趣味や嗜好、楽しんで頂ける内容を日々の関わりの中でアセスメントを実施している。また、月1回のユニット行事や日々のアクティビティを充実させ、余暇時間を有効に活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前年度に比べ、日々、天候良好の際は日光浴や施設周辺の散歩を行い、気候良好の時期には外出支援を実施している。また、本人様の希望で家族様と親子水入らずで外出支援を実施されている。	季節の好い時は枚岡公園や鶴見緑地などへ車で行く。アリオ八尾や百均ショップ、外食、等の外出も楽しんでいる。日常は近くを一回りの散歩をしたり、自治会の食事会、系列のホームでのサロンへ出かけ、お喋りを楽しんでいる。家族の協力で外出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭管理は家族様が管理されている。必要物品があれば、家族様へ依頼もしくは、施設購入し、請求をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様希望の際は、電話や手紙のやりとりを行っている。また、携帯電話持参の方に関しては、携帯電話で本人様の好きな時に電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設計上、生活共有スペースの日当たりが悪く、終日、昼夜の区別がつきにくい。その為、天候良好の際、日中は施設周辺で日光浴や散歩を行っている。また、ユニット内は季節に応じた設えや装飾を行っている。	食堂兼リビングは温湿度が適切に管理され、壁に職員と利用者のコラボによる手芸品が飾られ季節感がある。廊下とつながっているのでゆったりとして広い。玄関ホール、トイレ、浴室等清潔に保持されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	余暇スペースの確保や入居者様の気の合った方々同士、食席の変更等を行っている。また、各完全個室制であり、プライバシーの配慮に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用していた、箸・寝具類・本人様の嗜好品を都度、持ち込んで頂き、居心地よく過ごせる様に、努めている。また、入居者様・家族様・職員が設えの変更等を行っている。また、毎日、環境整備を行い、快適な生活を送れる様に、努めている。	居室には洗面台、トイレがあり、クロークがある。ベッドも用意されている。広さにはゆとりがある。各自使い慣れた家具備品を持ち込み、生活感と従来からの生活の継続感もあり、住みやすく設えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	日々、入居者様との関わりを大切にし、職員1人1人がアセスメントを行い、本人様の『できる事』を見つけ、アプローチしている。また、過剰介護を行わず、自立支援に向けた、取り組みを行っている。		